

## 博物館に展示されている「ふとん太鼓台」について

『伝承堺 百舌鳥八幡宮 月見祭』(百舌鳥八幡宮月見祭 伝統文化保存伝承実行委員会 2021年発行)に本町の初代ふとん太鼓台の記事が載っていましたので参考にしてください。(鉄本)



記念品のネクタイピン



昭和27年10月  
百舌鳥八幡宮にて

### 初代太鼓台

初代太鼓台は昭和四(1929)年に購入されました。当時の太鼓蔵は一丁にありましたが、昭和三十六年の第二室戸台風の襲来で太鼓蔵も太鼓台も損傷し、その年の祭りはできなかつたそうです。現在堺市博物館に展示されている初代太鼓台の柱が台輪桁からはみ出しているのは、もともとの角柱を断面が広い丸柱にすることで強度を持たせた名残です。初代太鼓台にはもともとは町章ではなく大入り袋を付けていましたが、昭和四十七年大阪の太鼓台と云うことから太閤さんの馬印である金網の瓢箪が付けられたと言われています。また、この太鼓台に彫られた豊臣方の武将「薄田隼人」が三代目太鼓台の彫り物に再び姿を見せています。初代太鼓台の最後の祭りは昭和五十四年で、宮入は二番、宮出は八番でした。宮出は土砂降りの雨でしたが別れを惜しみつつ夜中遅くまで担いで本町へと帰りました。その後堺市博物館へ寄贈され、感謝状と記念品のネクタイピンが堺市から贈られたそうです。

【参考】薄田隼人(隼人は通称 正式名は兼相かねすけ)

豊臣秀吉の馬廻り衆として3000石を領した。夏の陣道明寺の戦いで後藤又兵衛と共に奮戦するも戦死。墓碑は大阪市天王寺区の増福寺と羽曳野市誉田の2ヶ所。狒々退治の「岩見重太郎」のモデルと言われている。